

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	213人	社会	212人	数学	212人
	理科	212人	英語	212人		

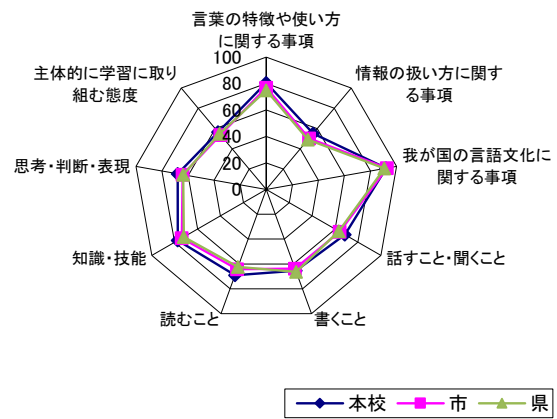
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.6	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	55.2	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	92.0	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	68.7	64.2	63.4
	書くこと	65.4	63.7	66.4
	読むこと	69.1	64.2	62.5
観点	知識・技能	77.3	73.7	71.9
	思考・判断・表現	68.0	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	56.5	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

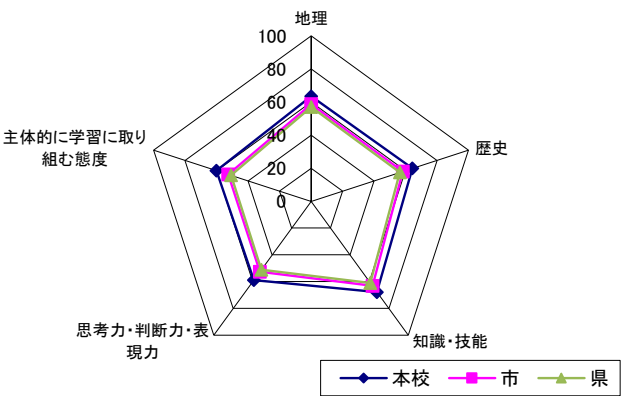
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○領域の正答率は市を3.7ポイント、県を5.7ポイント上回っている。漢字の読み書きについては概ね身につけており、特に書きに関しては3問中2問が県の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●文法の文節の問題では、県を4.1ポイント上回っているものの、正答率が50.2%であり、理解が不十分である。	・今回良く出来た漢字の書きは小学校での既習範囲である。出題が中学校での学習範囲になっても同じように高水準での正答が出来るようにくり返し復習し定着させる。国文法については今後さらに難易度が上がるため、文法の学習を進める際には既習内容を確認しながら行うようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	○領域の正答率は市を4.9ポイント、県を6.0ポイント上回っている。 ●「情報と情報の関係について話の構成を考えて書く記述問題」では県を9.6ポイント上回っているものの、正答率が50.2%であり、他の問題よりもかなり低い。文章記述の問題では、要点となる数か所が解答に含まれていることで正答になるが、不足がみられ正答にならない傾向にある。	・設問の解答として十分なものとするために、くみ取らなければならない点を取り切れていないので、指定文字数に合うように内容を調整しながらよりの確に情報をくみ取ることができるように指導していく。また、記述問題では、なるべく無回答にならないように十分に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の正答率は、県を1.3ポイント上回っている。 ●この領域は、正答率が92.0%と他の領域よりも高いものの、市の平均正答率を0.6ポイント下回っている。	・古典領域の学習をする際には歴史的仮名遣いが不可欠であるので、本文を音読する回数を増やしたり、適宜ミニテストなどの復習の機会を設けたりといった指導を繰り返し、より一層の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は市を4.5ポイント、県を5.3ポイント上回っている。 ●聞き取りの記述問題が、県を4.5ポイント上回っているものの、正答率が39.9%と低く課題が残る。	・今後も聞き取りの問題演習を普段の学習の中に取り入れ、聞いた内容を的確にメモをとることが出来るように継続して指導していく。また、話の内容を必要に応じてメモをとる習慣は授業外でも必要なので、学校生活全般でも折に触れて指導していく。
書くこと	○領域の正答率は市を1.7ポイント上回っている。 ●この領域のすべての問題で正答率70%を上回ることが出来なかった。指定の長さで文章を書く、自分の考えを明確にするという問題で、県の平均正答率を下回っている。	・指定された文字数で文を書けていないことは、校内のテストでも同じような傾向が見られる。文字数に満たないときは、見落としている重要な情報が無いか見直して、考えをまとめられるように指導する。また、自分の考えについて根拠をもって説明できるようにするよう、国語の授業を中心に指導していく。
読むこと	○領域の正答率は市を4.9ポイント、県を6.6ポイント上回っている。 ●「文章の構成や展開について根拠を明確にして考えている。」を問う問題では正答率が43.7%と低い結果であり、課題が残る。	・文章題を取り上げる際には、文章全体の展開や段落の構成・効果について、意識して示していく。段落ごとにどのようなことが書かれているのかを端的な言葉でまとめたり、段落のつながりを意識したりするよう指導をしていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	63.5	58.7	57.0
	歴史	64.4	58.3	56.4
観点	知識・技能	67.8	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	58.8	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	60.1	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

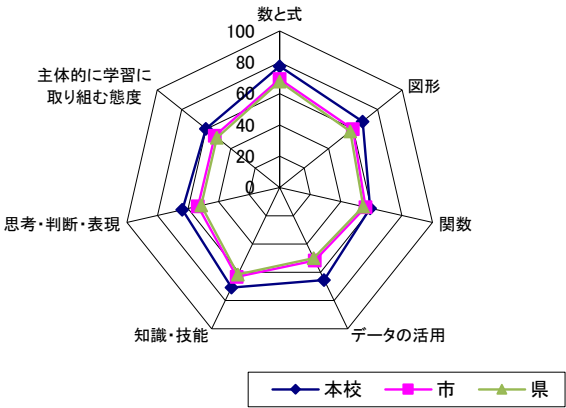
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○領域の正答率は市を4.8ポイント、県を6.5ポイント上回っており、「日本の姿」、「世界各地の人々の生活と環境」などの内容を中心にとどの内容もおおむね身につけている。 特に「日本の緯度・経度についての理解をもとに、様式図を読み取る」問題は、県の平均正答率を13.4ポイント上回り、また「世界の諸地域ヨーロッパ州・アフリカ州・北アメリカ州」に関して資料をもとに考察する問題は、県の平均正答率を11.5ポイント上回っている。 ●「世界の諸地域アジア州」に関する問題では、生産量上位国をもとに、どの農業生産物かを選択する問題が県の平均正答率を10.2ポイント下回った。	・農業生産物の生産量上位の国は、気候の特色を生かして生産していることや、農業生産物と気候との関係をもう一度確認する機会を設ける。農業生産物と気候の特色との結びつきが重要になってくるので、結びつきに気づけるような学習活動を行っていく。
歴史	○領域の正答率は市を6.1ポイント、県を8.0ポイント上回っており、「日本の古代」、「日本の中世」などの内容を中心にとどの内容もおおむね身につけている。 特に「年代の表し方」の理解に関する問題では、県の平均正答率を13.9ポイント上回り、また「摂関政治」の知識に関する問題は、県の平均正答率を21.1ポイント上回っている。 ●「地方と都の武士の成長」に関して写真資料をもとに記述する問題では、県の平均正答率を大きく上回っているものの、正答率が31.6%と全体の中で一番低い。	・記述の問題の解答状況を見てみると、「無解答」が23.6%で県の35%より低く、「内容が不十分な解答」が17.5%で県より高い。既存の知識をもとに「なぜ・どうして・その結果どうなったか」を追究する活動が不十分であると考えられるので、記述問題に答える機会を多く設け、資料を考察する力を高めていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	77.5	69.3	67.7
	図形	67.7	59.8	57.7
	関数	59.2	56.2	54.7
	データの活用	65.4	51.6	49.9
観点	知識・技能	70.8	63.2	61.5
	思考・判断・表現	63.7	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	60.3	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

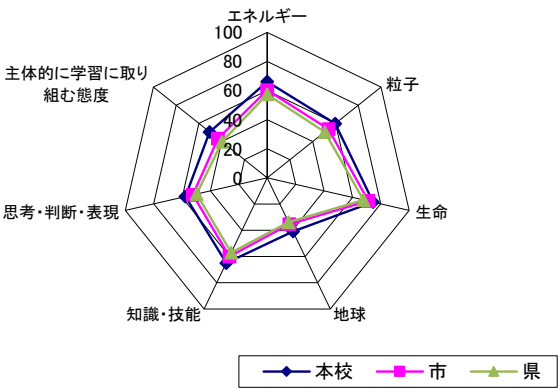
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は市を8.2ポイント、県を9.8ポイント上回っており、特に「1次式の減法」の問題は、県の平均正答率を19.6ポイント上回り、また「1次方程式」の問題は、県の平均正答率を14.5ポイント上回っている。	・1次方程式の計算など基本的な技能が定着している生徒が多いものの、活用する問題につなげることができていない生徒も見られる。数学的な見方・考え方の力の定着を目指し、いろいろな問題を扱い、問題解決の要点も再確認しながら指導していく。
図形	○領域の正答率は市を7.9ポイント、県を10.0ポイント上回っており、特に「球の表面積」の問題は、県の平均正答率を16.9ポイント上回り、また「回転移動」の説明は、県の平均正答率を12.6ポイント上回っている。 ●角の二等分線の性質の理解と作図の問題では、県よりは9ポイント高いものの正答率が43.9%と低く課題が残る。	・作図においては、その作図方法がどのような場面からできたのかを考えさせ、単なる暗記にならないように注意して指導する。 ・図形の学習に対しては、興味・関心が高く、意欲を持って学習に取り組む生徒が多い。今後も興味の持てるような教材開発を続けるとともに、必要に応じて具体物の操作や、自分の考えを発表する場を設けるなどして、全体的なレベルアップを図っていく。
関数	○領域の正答率は市を3.0ポイント、県を4.5ポイント上回っており、特に「比例のグラフ」の問題は、県の平均正答率を16.4ポイント上回り、また比例の式に表すことも県の平均正答率を11.5ポイント上回っている。 ●関数の意味を問う問題では、県より8ポイント下回っており、関数の意味についての知識・理解が不十分である。	・「関数」という言葉に苦手意識をもっている生徒が多く、正答率も他領域に比べると低い。表・式・グラフを関連付けながら指導し、数学的な技能のさらなる向上と、数学的な見方・考え方の定着を図る。
データの活用	○領域の正答率は市を13.8ポイント、県を15.5ポイント上回っており、特に「度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する」問題は、県の平均正答率を23.4ポイント上回っている。 ○累積度数、相対度数、中央値など資料の活用における知識・理解は昨年度の2年生より高くなり、県の平均を15ポイント上回った。	・領域の正答率が昨年度の51.8%から13.6ポイント向上した。昨年度導入された1人1台タブレットを、データの分析の分野で活用することを進めてきた成果と考えられる。今後も、授業の中での効果的な活用を図り、さらなるレベルアップを図っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	66.1	60.3	57.4
	粒子	59.7	53.8	50.7
	生命	74.6	71.2	67.8
	地球	40.9	35.3	33.8
観点	知識・技能	64.9	59.9	57.0
	思考・判断・表現	57.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	50.6	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

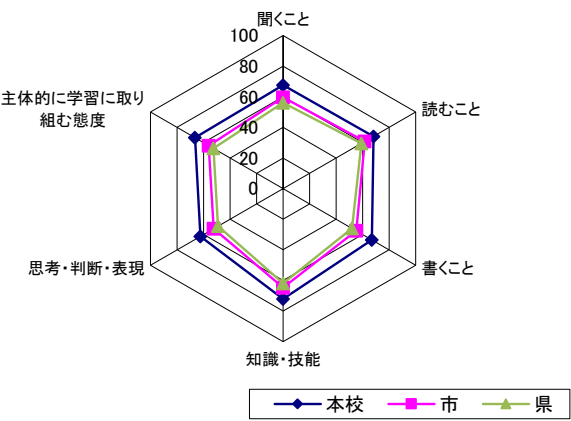
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の正答率は市を5.8ポイント、県を8.7ポイント上回っている。特に、音の性質では、音の高低の変化に関する問いの正答率が89.6%であり、よく理解できている。 ●力の表し方についての問題や、おもりにはたらく重力とばねののびの関係をグラフにする問題では、県の平均正答率を10ポイント程度上回っているものの、正答率が60%前後であり、理解が不十分である。	・実験結果をもとにグラフを作成する際には、時間をかけ丁寧に指導を行い、グラフ作成スキルの定着を図る。また、表やグラフから傾向をつかむための考察の時間を十分に確保する。
粒子	○領域の正答率は市を5.9ポイント、県を9.0ポイント上回っている。特に、二酸化炭素を発生させるために必要な物質を答える問題では、県の平均正答率を18.1ポイント上回っている。 ●質量パーセント濃度を求める式を導く問題では、正答率が30%以下であり、無回答も22%と定着度が低い。	・計算問題では苦手意識を持つ生徒が多いため、考え方を丁寧に指導し、繰り返し問題に取り組む必要がある。AIドリルを活用し、個人の理解度に応じた問題を出題するなどして苦手意識の軽減に努める。
生命	○領域の正答率は、市を3.4ポイント、県を6.8ポイント上回っている。植物や動物の分類についてはよく理解できている。また、脊椎動物と無脊椎動物の分類に関する問題では正答率が90%を超え、定着が図れている。 ●植物や脊椎動物の分類に比べ、無脊椎動物の中の分類の問題は正答率が49.1%であり、理解が不十分である。	・無脊椎動物の分類では、軟体動物やその他の無脊椎動物の種類分けも示し、資料や映像、実物を提示するなどして理解を深めさせる。
地球	○領域の正答率は、市を5.6ポイント、県を7.1ポイント上回っている。特に、P波とS波の性質に関する問題は県の平均正答率を15.3ポイント上回っており、また初期微動継続時間を推測する問題は県の正答率を12.3ポイント上回っている。地震についてはよく理解できている。 ●柱状図を読み取る問題では、県の正答率を9.0ポイント上回っているが、正答率が20%未満であり、かなり課題が残る。	・他領域に比べ、理解が不十分である。動画教材や実物の提示、実験を行うなどして、興味・関心をひきながら理解を深めさせていく。柱状図はモデルを使い可視化することで、柱状図と実際の地形の広がりとの関係を理解させる。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	67.6	59.6	56.1
	読むこと	68.2	61.6	59.1
	書くこと	67.0	55.2	51.9
観点	知識・技能	72.1	64.7	61.9
	思考・判断・表現	62.4	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.4	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の正答率は、市を8.0ポイント、県を11.5ポイント上回っている。特に「対話文の応答」は、県の平均正答率を16.6ポイント上回っている。 ●他の領域と比較してみると、英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答える問題の正答率が27.4%とかなり低い。	・授業でのインタラクションやオーラルイントロダクションを効果的に行いながら、聞き取る力を伸ばしていく。 ・ALTを授業の中で効果的に活用し、ネイティブの発音に慣れさせ、聞き取る力、それに正しく応答する力を伸ばしていく。
読むこと	○領域の正答率は、市を6.6ポイント、県を9.1ポイント上回っている。特に「語形・語法の知識・理解」の問いに関する正答率が県の平均正答率を大きく上回っている。 ●「長文の読み取り」の「読み取った内容をふまえて対話文を完成させる問い」は県の平均正答率を12.7ポイント上回っているが、正答率が43.9%と低く、課題が残る。	・教科書の本文やそれ以外の教材を効果的に活用し、まとまりのある英文の要点をつかませる力を継続的に育てていく。 ・長文に対する苦手意識の強い生徒が多いため、段階的に英文の量を増やししながら、英文読解に慣れさせる。 ・読み取った内容を活用し、要約をしたり、自分の意見をまとめたりする活動を行い、日頃から複数の技能を統合した授業を行うことを意識して指導する。
書くこと	○領域の正答率は、市を11.8ポイント、県を15.1ポイント上回っている。特に「情報に基づいて書く英作文」に関する問いでは、県の平均正答率を21.3ポイント上回っている。 ●「場面に応じて書く英作文」(対話の流れに合った英文を書くこと)は県の平均正答率を13.5ポイント上回っているものの、正答率が52.6%と十分とは言えない。	・普段から、単文からまとまりのある英文を書けるようにと段階的な練習を行わせ、表現力を高めていく。 ・個別に支援が必要な生徒に対して、ティームティーチングや習熟度別学習の授業を活用して、継続して支援していく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について肯定的回答をした生徒の割合は70.2%であり、市より7.8ポイント、県より11.7ポイント高くなっている。また「家で、自分で計画を立てて勉強している」や「家で、学校の授業の復習をしている」や「家で、テストで間違えた問題について勉強している」などの肯定的回答割合が市や県よりも高く、学習に自ら取り組む生徒が多い。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をした生徒の割合は81.6%で市や県よりも高く、学ぶ楽しさを感じている生徒が非常に多い。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」に対する肯定的回答をした生徒の割合は86.7%で市や県よりも高く、自分で調べたりあきらめずにねばり強く考えようとする生徒が多い。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に対する肯定的回答をした生徒は96.2%で、県よりも9.1ポイント高く、ほとんどの生徒が教科の有用性を感じており、学ぶ意欲につながっている。

○「教科の授業の内容はよくわかりますか」や「教科の学習は好きですか」に対する肯定的回答をした生徒の割合は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科すべてにおいて、市や県の平均を上回っている。教員の授業力向上に力を入れてきた成果と考えられるので、今後も継続していく。

●ふだん、1日当たり、テレビゲーム(コンピューターゲームや携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームなど)を2時間以上していると回答する生徒が33.4%で、昨年度の2年生より9.0ポイント減少した。また、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上していると回答した生徒も20.8%と昨年度の2年生より4.0ポイント減少している。市や県に比べるとゲームもメール等の時間も少なくなっており、今後も情報モラル教育とあわせて携帯電話やスマートフォンの利用時間についての指導や、家での時間の有効活用の指導の継続に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを進んで表出する生徒の育成 ・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用することやChromebookのJamboardの積極的活用を推進する。 ・授業において『本時の目標』の提示や、ねらいに即した展開をする。	「クラスは発言しやすい雰囲気である」に対する肯定的回答が80.1%で、市や県よりもやや高い。 「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」に対する肯定的回答が94.8%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する肯定的回答が昨年と同様で68.3%であり、市や県より低くなっている。	振り返る活動の充実	授業の終わりや単元の最後に、学習課題に対する振り返りを行う時間を確保し、ノートやワークシートにまとめさせたり、発表させたりする活動を今後も継続して行う。